



萬津総合病院は、医療原案でご協力いただいている富野浩充さんが勤務されている病院がモデルとなっています。お休みの外来業務がほとんどない日を狙って取材に入り、作品の制作に必要な資料となる写真を撮らせていただきました。マンガという作品を描き、ストーリーを制作する際にはどうしてもフィクションが入ってしまいます。だからこそ、ストーリーが展開される場所、設定にはリアリティが必要だと私は考えています。薬剤師さんや薬学生さんが読んだときに「あ、ちゃんと描いている」、そして一般の方が読んだら「へえ、薬局の中ってこんな風になっているんだ」と思っていただけでもいいかなと思って描いています。だから、背景には毎回念を入れ、時間をかけて描くよう心がけています。

### 舞台となる 萬津総合病院って？



## アンサングシンデレラを 楽しむ5つの要素

著者の荒井ママレ先生に、作品をより深く理解し、楽しむための創作のこだわりや苦悩、見どころを伺いました！

# 1

「薬剤師っていらなくない？」  
主人公葵みどりの自問、  
そして薬剤師・薬学生にとって  
重い問いかけで始まった  
「アンサングシンデレラ」とは

「アンサングヒーロー(unsung hero)」

という言葉があります。「縁の下の力持ち」という意味です。本作「アンサングシンデレラ」は医療の世界の縁の下の力持ちである薬剤師をテーマにしています。薬剤師さんは多くの患者さんが医療を受けるときに最後に会う医療従事者です。1日に発行される220万枚の処方箋のうち、6万枚を超える処方箋に疑義照会をかけ、その約70%を処方変更へと導いていることが厚生労働省の行った調査から推計されています。薬剤師さんは患者さんが医療という非日常の世界から、日常に戻る際に最後の砦となる存在です。その薬剤師さんを描いた本作を今後も多くの方に伝えたいと思っています。また、薬剤師さんの日常を拝見している他の仕事をしている方たちと同じように、仕事に時には雑談などの会話を交わしたりして、同じような勤務時間を送っていることがわかりました。今後は「私たちの日常には薬剤師さんという職業の方がいて、毎日普通に仕事をしていて、自分と変わらないような日常を過ごしている」というところも描いていきたいと考えています。薬剤師さんの仕事を「なんだ、自分と同じように悩んだり、喜んだりすることがある身近な仕事なんだ」と一般の方に共感していただき、でも「薬剤師にはあるあるだけど、薬剤師以外は知らない情報かも」といった新たな発見もあるような話題を提供できたらと思っています。



# 4

コミックス第1巻表紙の  
「調剤室」描写にかけた  
荒井先生のこだわり



コミックス第1巻のカバーですが、外していただくと表紙と背表紙が一続きの絵になるようにしてあるんです。表紙のデザインを決めるとき、たくさんアイデアが出たのですが、私は「このデザインでやりたい!」と最初から思っていました。病院の取材を通して目に焼き付いて離れない印象的な光景が、調剤室の調剤棚の光景だったからです。表紙に取り掛かる際、担当編集者さんからは「背表紙は白背景に主人公の名札が置かれているような絵はどうですか」と提案されました。でも私は「表と裏が一続きになった表紙、カッコいいですよ!」って力説。制作の途中「自分、どうしてこれをやりたいと言ったのだろう」と思うくらい色塗りなどに苦労しました(苦笑)。



荒井ママレ先生の「アンサングシンデレラ」が薬ゼミのPh-portで読むことができます。

← Ph-portについてはP41へ!  
Ph-port (<https://ph-port.jp/support/unsung>)



「マンガはっと」は名作マンガや人気マンガが毎日読めるマンガアプリ。「ワカコ酒」「モブ子の恋」「トレス 科捜研法医研究員の追想」「アルテ」「のぼさんとカノジョ?」「ひとり暮らしのOLを描きました」など『月刊コミックゼノン』と『WEBコミック ゼによん』の最新マンガの他、オリジナル新作マンガも配信中!

# 5

みどりのヘアスタイルが「お団子」になった、  
荒井先生の遊び心を感じる  
誕生秘話



第1話でみどりの上司(瀬野)に「がしっ」とお団子をつかまれるシーンがあるんですが、実はあのシーンを描きたいと思ったからなんです(笑)。というのがきっかけだったみどりのお団子ヘアですが、他にも意味があります。第1話の冒頭で、勤務に入る前に、おろしていた髪の毛をみどりがきゅっとお団子に結びあげるシーンがあります。「今日もがんばろ!」という主人公の気持ちを込めたシーンです。みどりにとってお団子ヘアは、仕事のオン・オフを切り替えるスイッチのようなものなのかもしれません。



# 2

演出のためにあえて  
他職種を味方や仮想敵に。  
創作の苦悩

現在の医療というのは1人の患者さんが健康になるためにさまざまな職種の医療スタッフが協力し合って、仲間となって支えていきますよね。それは理解しているものの「病院の中の薬剤師」というテーマを描くため、ときには演出として、薬剤師さん以外の医療スタッフをあえて仮想敵として描かないといけないことがあります。例えば第1話や第4話では医師が仮想敵となったため、ちょっと嫌なキャラクターとして描くことになりました。こうした点が制作の上で難しく感じる点で、編集者さんなどとよく話し合った箇所です。一方で、第3話では他職種の看護師の豊中さんを、第4話では助産師の倉本さんを、薬剤師さんと一緒に患者さんの健康を守るチームの一員、仲間として登場させて描けたのはよかったと思っています。薬剤師の同僚たちについては、お互いにお互いを捕い合えるようなキャラクターを描きたいと思っていました。今後はみどり以外のキャラクターに焦点をあてたお話も描いていきたいです。